

## 新型コロナ COVID19 の猛威

— 日本の奇跡は本当か —

山梨大学 学長 島田 眞路

山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

特任教授・GRM 荒神 裕之

今般の COVID 感染症について、日本は感染者数 18,000、死者数 950（6 月 20 日現在）とよく健闘しているように見える。USA はそれぞれ 220 万、12 万、英国 30 万、4 万、イタリア 23 万、3 万など欧米に比べて日本は 1/10 以下である。最もがんばっているドイツでさえ 19 万、8900 である。この数を比べて「日本の奇跡」と WHO 事務局長など WHO 関係者が感嘆の声を上げ、安倍首相も同調して、日本は医療制度が充実し、清潔好きで規制などの遵守意識が高いなど、さまざまな原因を上げている。BCG 接種など珍説も流布している。日本は残念ながら習近平氏国賓来日、東京オリンピック、パラリンピックなどを控え、入国制限は大幅に遅れ、春節前後で多数の中国人観光客を受け入れ、さらに唯一の診断的検査である PCR 検査も大学などを使わず、保健所などにとどめつづけたため、やっと少し緩和しても今でも途上国並みのレベルにとどまっている。これで奇跡などありえない話である。

東南アジアに目を向けてみると、ベトナム感染者 349、死者数 0、台湾 446、7、香港 1127、4、タイ 3147、58、マレーシア 8300、120 となっている。奇跡というならこれらの国々である。彼らこそ入国制限を適切に行い、PCR 検査を十分に行い、奇跡をおこしているのである。10 万人あたり死亡数は日本より格段に良い。医療制度、清潔意識、遵法意識など日本の方が格段に優れているにもかかわらず、この成績である。いかに日本が失敗してきたかを如実に物語っている。これから第二波が予想されるが、日本も彼らに見習って PCR 検査（改良抗原検査など質の高い検査なら OK）を大幅に拡大し、感染者を隔離していくことが感染抑制に重要である。さもないとロックダウン政策を繰り返し、経済が疲弊してしまうのは必至である。